

πάσχα

パスカ

知っておきたいキリスト教のことば (13)

イースター いーすたー

イースターとはキリスト教最大の祭りで、最も古くから祝われているものです。しかしキリスト教徒でなければ、クリスマスは聞いたことがあってもイースターのことは知らないという人がほとんどかもしれません。その原因は、クリスマスは毎年 12 月 25 日と決まっているのに対し、イースターは年によってその日が変わることもあるでしょう。

「イースターは 3 月 21 日(春分の日)以後の最初の満月の後の最初の日曜日」、この言葉を聞いて、来年のイースターの日がちがすぐにわかる人はすごいと思います。わたしは聖公会が出している手帳に頼りっぱなしですが。

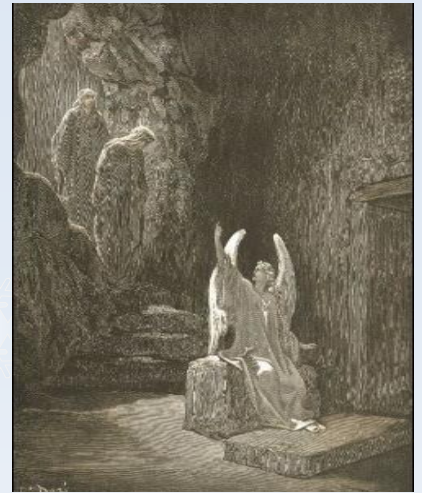
さて、イースター(Easter)という言葉ですが、「暁」または「春の女神エイオストレ」(Eostre)が語源であると考えられています。わたしは東(East)から太陽が昇るので、そのことと関係があるのだと思っていましたが、そのような説は見当たりませんでした。ともかく英語では「春の祭り」ということが強調されています。

それに対し、パスカというギリシア語をはじめ、ヨーロッパの言語の多くは、ヘブライ語のパスハー、過越祭を語源としています。つまりここでは「過越」が強調されているのです。

しかし聖公会をはじめとする多くの日本の教会では「復活祭」と呼びます。文字通りイエス様が十字架につけられて、三日後に死者の中から復活されたということをお祝いするのです。

ちなみにイースターには伝統的に、カラフルな卵がふるまわれます。この卵は「イースターエッグ」といい、新しい命(復活)の象徴とされています。さらにウサギもイースターのシンボルですが、多産であるウサギも同様です。

次回は「イエス」です。お楽しみに。



「無人の墓の天使と女たち」
ギュスターヴ・ドレ (1832-1888)

あの方は、ここにはおられない。かねて言われていたとおり、復活なさったのだ。さあ、遺体の置いてあった場所を見なさい。

(マタイによる福音書 28 章 6 節)

